

事例 6

計量スプーンの柄の改造

1 相談内容

相談者は生活介護の作業所で洋菓子づくりをされており、計量のためのスプーンの柄が細くてしっかり安定して持つことができないため、柄を太くして持ちやすい自助具が作れないだろうかと事業所の職員から相談がありました。この相談者は以前に柄を太くする自助具を試作して使っていたのですが、ネジ部が壊れて使えなくなっていました。そこで、改良を加えた柄を太くする自助具をプラザで作ることにしました。

2 利用者プロフィール

20代男性、脳性まひにより身体障害者手帳1級であり、家族と暮らしています。

3 対応

当初、計量スプーンの柄をネジやアクリル板で押さえつけて固定する方法を採用していましたが、ネジが壊れたり、アクリル板が割れてしまって使えなくなっていました。そのため、塩ビパイプの肉厚のブロックを内側に貼り付け、柄がぴったり安定して押さえつけられるように工夫しました。その上でネジ止めして補強し、計量中であっても柄がズレないように作ることができました。また、ネジをゆるめて柄をはずすことができ、まるごと自助具を洗浄でき、衛生上にも配慮しました。



以前の計量スプーン用自助具



スプーンの柄固定部の改良



改良して製作した自助具

4 結果

本人からはこれまでどおり、使い勝手も良いとの感想をいただきました。

5 予算

600円程度